

「イエスは霊的に死んだ」

信仰のことばの教え

「信仰のことば運動」とは、十字架よりも奇跡やお金を強調するペンテコステ派やカリスマ派の一部で好まれている運動です。この信仰のことば運動には多くの側面がありますが、これを広めている人たちは全員間違っただけの教義に賛同しているようです。「イエスは霊的に死んだ」というものです。

偽りの教え

有名な“繁栄の福音”の教師たちによると、イエスは十字架上でご自身の働きを完成されなかったといます。「イエスはサタンの性質をご自身に受け、地獄に行き、そこで三日間苦しみを受けた。その後イエスは地獄で新しく生まれた。その後悪魔を滅ぼし、御父の元に戻った」というのです。以下の引用はこの考えを裏付けています。

—引用—

ケネス・ヘーゲン

『霊的な死とは神から離される以上のことを意味する。また霊的な死はサタンの性質を持つことをも意味する...イエスは死—霊的な死—をすべての人のために味わわれた』 K. Hagin, *The Name of Jesus*, 1981) p.31.

『永遠のいのちを受けることが、私たちの内に神の性質を受けるのと同じように、霊的な死とはサタンの性質を受けることを意味する』 K. Hagin, *Redeemed*, Tulsa, OK, Faith Library, 1966, p.29

『彼（イエス）はすべての人のために霊的な死を味わわれた。そして彼の霊と内なる人は私の代わりに地獄に行かれた。分かるでしょうか。肉体的な死はあなたの罪を取り去りはしないことを！彼は死をすべての人のために味わわれた。彼は霊的な死について語っておられた』 (How Jesus obtained his name tape # 44HO1 side 1)

ケネス・コーブランド

『イエスさまが「完了した！」と叫ばれた時、それは贖いの計画に関してではなかった。

彼が御座に至るまで、まだ三日三晩あった。彼はアブラハムの契約について語っておられた。イエスの十字架上で死は、ただ完全な贖いのわざの始まりにしかすぎなかった』(Kenneth Copeland, "Jesus - Our Lord of Glory", (*Believer's Voice of Victory*, April, 1982, p. 3).

『彼（イエス）は悪魔に地獄の深みまで連れて行かれるのをお許しになった...彼はサタンの支配下に置かれることを許された...地獄のすべての悪霊が彼を滅ぼすために彼の上に来た...悪霊たちは私たちが誰も想像できないほどまで彼を苦しめた。三日間彼は極限まで苦しめられた』(Kenneth Copeland, "The Price of It All," 3.)

『三日間彼は極限まで苦しみを受けた。ある人たちはこれを信じようとしなない。彼らは、イエスが死なれた後に、聖書でパラダイスと呼ばれているシェオル（よみ）の上の部分にただ留まっていたと信じたがっている。しかしなんと誤った考えだろうか！もし彼がただそこに留まっているだけならば、罪のための代価は何も支払われなかったのだから』(Believer's Voice of Victory, Vol. 19, No. 9, Sept. 1991)

『...イエスは二度死なれた。彼は肉体的に死なれ、霊的にも死なれた。イエスが罪となられた時、神と離され...彼の血が注ぎだされた時、それは贖いの力を持たなかった。それは私たちに敵対する律法の戒めを追いやったが...イエスはこの地の深みでひどい三日三晩を過ごされ、私たちの神と共にある権利と一緒にあなたや私のために戻って来られた...』(doctrinal statement dated March 12, 1979)

フレッド・プライス

『私たちの罪のための刑罰が十字架上で死だと思うのですか？もしそうなら、二人の盗人でさえも私たちの代価を支払えたでしょう。違います。刑罰は地獄そのものに行くことであり、地獄で神と引き離された時間を過ごすことなのです』(Frederick K. C. Price, *Ever Increasing Faith Messenger*, June 1990, p. 7)

ベニー・ヒンやジョイス・マイヤー、その他の信仰のことばを教える教師たちはみな、時は違えど、この偽りの教えを表明しています。

なぜこれが偽りの教えなのでしょう？

「イエスは霊的に死なれた」という教えは非聖書的であるために偽りのものです。以下に記された聖書箇所をよく考えてみてください。それを読みながら、イエスは私たちの罪を

どこで贖われたのかという質問を自分自身に問いかけてみてください。十字架上で血が流された時か、または悪魔によって地獄で苦しみを受けたときでしょうか？

『ですから、今すでにキリストの**血によって**義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。』ローマ 5章 9節

『この方にあって私たちは、**その血による**贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。』エペソ 1章 7節

『しかし、以前は遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスの中にあることにより、キリストの**血によって近い者とされた**のです。』エペソ 2章 13節

『**その十字架の血によって**平和をつくり、御子によって万物を、御子のために和解させてくださったからです。地にあるものも天にあるものも、ただ御子によって和解させてくださったのです。』コロサイ 1章 20節

『まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神に**おささげになったその血は**、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕える者とするでしょう。』ヘブル 9章 14節

『それで、律法によれば、すべてのものは血によってきよめられる、と言ってよいでしょう。また、**血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはない**のです。』ヘブル 9章 22節

『ですから、イエスも、**ご自分の血によって**民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。』ヘブル 13章 12節

『ご承知のように、あなたがたが父祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、もなく汚れもない小羊のようなキリストの、**尊い血によった**のです。』1ペテロ 1章 18節、19節

『イエス・キリストは私たちを愛して、**その血によって**私たちを罪から解放し、』黙示録 1章 5節後半

『彼らは、新しい歌を歌って言った。「あなたは、巻き物を受け取って、その封印を解くのにふさわしい方です。**あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、**

国語、民族、国民の中から、神のために人々を贖い、』黙示録 5 章 9 節

『自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。』ピリピ 2 章 8 節

『信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず**に十字架を忍び**、神の御座の右に着座されました。』ヘブル 12 章 2 節

『そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。』1 ペテロ 2 章 24 節

明らかにイエスは私たちの罪の贖いを十字架上でなされ、地獄においてではありませんでした。息を引き取られる直前彼は「完了した」（ヨハネ 19 章 30 節）と叫ばれました。ギリシア語の意味するところは「負債が完全に支払われた」というものです。もし贖いがまだなされていなかったのなら、この箇所は意味を持たなくなります。ケネス・コーブランドはこれをアブラハムの契約の終焉だと主張しています。ケネス・コーブランドはアブラハムの契約が永遠に続く契約であることを分かっていなかったようです！それはキリストが十字架上で死なれた時に終わりはいませんでした。神のアブラハムの子孫への約束は、これまでそうであったように今日も真実なものです。キリストは十字架上でモーセの契約を果たしました。何が終わったのかというと、神の怒りが私たちの代わりにキリストに降り注がれたからです。これと、主の日に最期の天使が怒りの鉢を地に投げ捨てている黙示録 16 章 17 節を比べてください。「完了した」その時、負債が“完全に支払われた”ので、キリストは『父よ。わが霊を御手にゆだねます』（ルカ 23 章 46 節）と祈ることができたのです。

よみでイエスは何をしていたのでしょうか？

聖書のどこにも、イエスが私たちの罪を贖うために地獄で苦しまれたという箇所はありません。

1 ペテロ 3 章 18 節から 19 節ではこうあります

『キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちが神のみもとに導くためでした。』

（注意してほしいのが、イエスは**肉**においては死に渡されたが、**霊**においては生かされたと

あり、苦しまれたのではありません)

『その霊において、キリストは捕らわれの霊たちのところに行って、みことばを語られたのです。』

キリストはよみにいる者たちのためにそこへ下り、福音を宣べ伝えられました。そこで恐らく十字架の奥義を説明されたことでしょう。邪悪な者（ペテロはノアの日に罪を犯した天使たちが縛られていると語っています）と義なる者（イエスは捕われの者たちを引き連れました エペソ 4 章 8 節）に対してです。キリストはアブラハムと共に待っていた者たちを神の右の座に連れて行かれたのです。

サタンの性質？

信仰のことばを教える教師たちは、イエスが自分にサタンの性質を受けたと主張しますが、聖書は反対のことを教えています。

『まして、キリストが**傷のないご自身を**、とこしえの御霊によって**神におささげになった**その血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕える者とするでしょう。』ヘブル 9 章 14 節

ここでささげられたと書かれてあるのは、キリストの血であり、彼の霊が私たちの良心をきよめる（また罪を取り去る）のではありません。またイエスは傷のないご自身をささげられました。聖書が「傷のない」と書いているのに、イエスがサタンの性質を受けたと教えることは何と冒とく的なことでしょう！

『ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。』1ペテロ 1 章 18 節、19 節

私たちが贖いを受けたのはサタンの性質（サタンの霊）によるのではなく、「傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によった」のです。

「レット・アス・リーズンミニストリーズ」のマイク・オッペンハイマー (*Mike Oppenheimer*) は次のように書いています

『罪のためのささげものの動物はすべてキリストの象徴です。レビ記 4 章 3 節は欠陥のな

い雄牛であり、レビ記 4 章 23 節は傷のない雄やぎ、4 章 32 節は傷のない子羊でした。それらは傷や欠陥がないか念入りに調べられました。1 コリント 5 章 7 節からイエスは過越の子羊だと分かります。贖罪のやぎになされた身代わりのいけにえの考えは、ささげる者がいけにえの動物の頭に手を置き、罪と罪過を象徴的に移すということでした（レビ記 4 章 4 節、24 章 33 節）。そのいけにえは罪を覆うものとなり、神は罪ではなく、その流された血を見られたのです。イザヤ 53 章 6 節では「...主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた」とあります。キリストの上に手を置いたのは御父であり、私たちの代わりに彼が裁かれるためにそうなされたのです。そのいけにえの動物自体は罪になったのではなく、象徴的に罪を着せられたのであって、もしそれに傷があったり、罪に関わっていたりすると価値が無くなりました。』

ケネス・コーブランドは幻の中でイエスと十字架について話し合ったと主張しています

『神の義は罪とされた。彼はご自身の霊においてサタンの罪の性質を受け入れた。そうした時、彼は叫んで「わが神、わが神、わたしをなぜお見捨てになったのですか」と言われたのだ。私たちは十字架上で何が起こったかを分らない。モーセは、神の命令を受けて、なぜあの棒の上に子羊でなく、蛇を掲げたのだろうか？そのことは私を悩ませた。「一体なぜサタンの象徴である、蛇をそこで掲げたのだろうか？なぜ子羊ではなかったのか」そして主は言われた、「それは、サタンが十字架に掛けられたというしるしだからだ」彼（イエス）は言われた、「わたしは自分の霊において、霊的な死を受け入れた。そして光が消えた。』
(Kenneth Copeland, *What Happened From the Cross to the Throne?* cassette tape 1990, Side B).

すべて木に吊るされるものは呪われる。これはキリストが十字架上で私たちの罪のために神に呪われたことを示す十字架の象徴です。サタンの性質を受けたなんてことはなく、キリストは父の御心に完全に従順でした。

『キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。』ピリピ 2 章 8 節

罪を知らない方を罪とされ

『神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方であって、神の義となるためです。』2 コリント 5 章 21 節

キリストは罪のためのささげ物として見なされていました。この箇所を“された”と訳されて

いる言葉は、マタイ 7 章 2 節で、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られると書かれている言葉と同じです。それは人が良くなるよう強制するのではなく、良い人であるかのように扱うということです。

この教理の由来

この「イエスは霊的に死んだ」という教理はよくクリスチャン・サイエンスと“新しい思考 (*New Thought*) ”を教える E・W・ケニヨンから来たと言われ、指摘されています。ケネス・ヘーゲンがそれを彼からただ直接コピーしただけだと一般的に考えられています。これは真実かもしれませんが、ヘーゲンは時折、ケニヨンの書いたものを一字一句コピーし、それを自分に与えられた「キリストの個人的な啓示」にまで当てはめています。しかしジョン・カルヴァンでさえ、この「イエスが霊的に死んだ」という考えを示唆していることは注目に値するものです。

『もしキリストが肉体的な死を耐え忍んだだけなら、何事も達成されていない。私たちと神の怒りの間に介入するために、またその義なる裁きを正当化するためには、彼は神の復讐の重さを実感することが必要だった。そのため、彼は地獄の力と永遠の死の恐怖との接近戦を戦うことが必要であった』 John Calvin, *Institutes of the Christian Religion*, II.16.10.

ある人はこのような文書から、ヘーゲンは異端的ではなく正統的なものに戻ったのだと議論しますが、私たちが覚えておくべきなのは、異端とはキリスト教徒が歴史的に信じてきたことから離れることではなく、神のことばから離れることであるということです。どの程度までこれをカルヴァンが教えていたかは分かりません。しかしひとつのことが確かです。ヘーゲンと“繁栄の信仰”の教師たちが教えているこの教理は、十字架の有効性を否定するということです。これはイエスの贖いのわざを十字架の後に位置付けます。またこれは純粹で聖なる神にサタンの性質を着せるものなのです。

この教えはどこに至るのでしょうか？

『なぜ彼（イエス）は人として生まれる必要があったのか？それは彼が私たちのように、神と離された状態になるためだ。彼はすべての人のために霊的な死を味わわれた...イエスこそが史上初めて新生したお方なのだ』(K. Hagin, *How Jesus Obtained His Name*, Tulsa: Rhema)

ケネス・コーブランドはこれを論理的な結論に持っていきます。イエスは地獄で苦しみ、

地獄で新生した（もちろんこれを支持する聖書箇所はありません）。それゆえ、イエスは新生した人として悪魔に打ち勝った。ケネス・コーブランドは新生した人だと自称しています。それゆえ、ケネス・コーブランドはイエスの代わりに十字架上で死ぬこともできたと教えるのです。なんとばかばかしい教えでしょう。コーブランド自身の言葉を読んでみてください。

『神の霊が私に語りかけて言われた、「子よ。これを知りなさい。これについてわたしに従い、あなたがたの伝統につまづかされてはいけない」彼は言われた。「このように考えなさい——二度生まれた人は彼自身の領域でサタンを打ち負かした」そして私は聖書を投げ出して...言った。「どのようなことですか？」彼は言われた。「新生した人がサタンを打ち破った。多くの兄弟たちの長子が彼を打ち破ったのだ」彼は言われた。「あなたこそがその体現であり、先のもの写しなのだ」私は言った。「あなたはもしかして、こう言いたいものではありませんよね。私は同じことを出来たなんてことを」彼は言われた。「そうだ。彼が持っていたような神のことばの知識をあなたが持っていたなら、同じことも出来ただろう。“なぜならあなたもひとりの新生した人だからだ”』 (Kenneth Copeland, *Substitution and Identification* (Kenneth Copeland Ministries, 1989), tape #00-0202, side 2.)

あなたがその知識を持っていたなら...神と同じことを出来ただろう...誰がそれを言ったのでしょうか？神の霊でしょうか、それとも悪魔の霊でしょうか？

『あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。——蛇』創世記 3章 5節

従って、彼らは人を神の地位まで押し上げています。これは信仰のことばの神学の他の側面とも一致しています。ポジティブな告白、私たちのことばが現実を創造する（神にしかできないことです）、神は私たちの祈りに答えなければならない信仰の法則に縛られている（これを教える人はマルコ 11 章 22 節を曲解し、“神に信仰を持つこと”とはせず、神が信仰を用いたと考えます）。

結論

私たちは、自分たちの罪を除き去るイエスの贖いの血に信仰を持たなければなりません。すべての明確な新約聖書の教えはこの事実を指し示し、旧約聖書のすべての象徴もそれを教えています。この最も重要な教理から離れることは異端であり、十字架を否定し、冒とくと人の神格化へと至らせます。

『イエス...は新生した人として復活された...私は新生した人がサタンと地獄、死に打ち勝ったと気付いた時、とても興奮した...!』 (Believer's Voice of Victory , September, 1991)

『私が提示しているこの真理を信じない限り、誰も天国に行く望みは持てない。イエスがあなたの代わりに地獄へ行かれたことを心を尽くして信じない限り、あなたは天国には行くことが出来ない』 (Joyce Meyers, the Most important decision You will ever make 1991).

ジェフ・トゥール

モリエル日本

マイク・オープンハイマー (レット・アス・リーズンミニストリーズ) からの資料提供を深く感謝しています。